

日蓮伝説の跡を訪ねて



市川市教育委員会

市川の日蓮伝説

日蓮が市川を訪れたのは文応元年(1260)のこととされています。当時打ち続く天変地異や悪疫の流行を憂いた日蓮は、これは邪宗がはびこっているからで、今に他国の侵略をまねく危険があると警告した「立正安国論」を著しました。そして北条時頼に法華経による救国を進言したのですが入れられず、かえって念仏宗徒のために鎌倉の松葉ヶ谷の庵が焼討され、日蓮は危うく難を逃れて若宮の富木常忍の館にたどりつきました。

富木常忍はもと因幡国(鳥取県)富城郷の出身でしたが、関東に移住して若宮に館を構え下総の守護千葉介頼胤に仕えました。彼の仕事は当時府中(国府台)に置かれたと思われる守護所に通い、千葉介の執事として働きました。そして常忍が鎌倉参勤の折り日蓮の説法を聞き、感じるところがあって法華経を信仰するようになったものと思われます。

若宮館にたどりついた日蓮は、鎮守若宮八幡の社殿で説法をしましたが、この説法を聞いて日蓮に帰依する者が多く、そこで常忍は法華経信仰の記念として、館の中に法華堂を建て日蓮に献じました。日蓮は自ら

釈迦如来の像を彫って安置し、妙蓮山法華寺と号しました。これが法華経寺の起りで現在の奥之院の地に当ります。この時日蓮は近郷近在の人々を集め百日間にわたる百座説法をおこなって、信者たちに大きな感銘を与えました。若宮・中山を

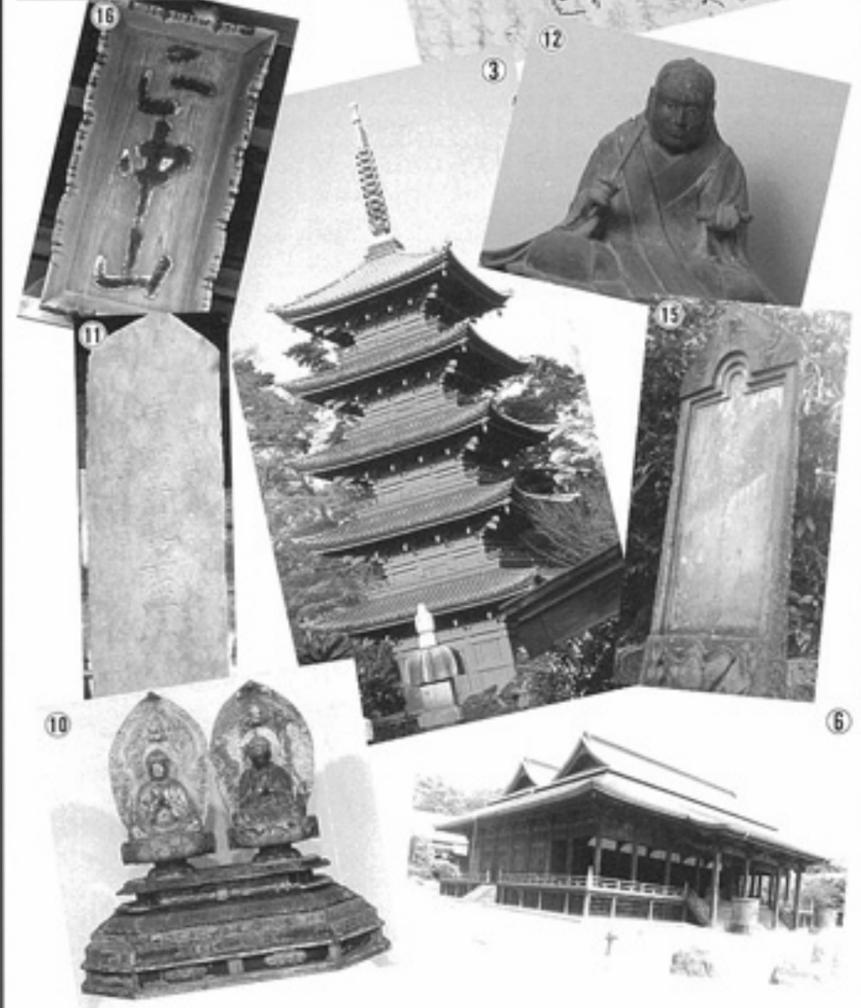
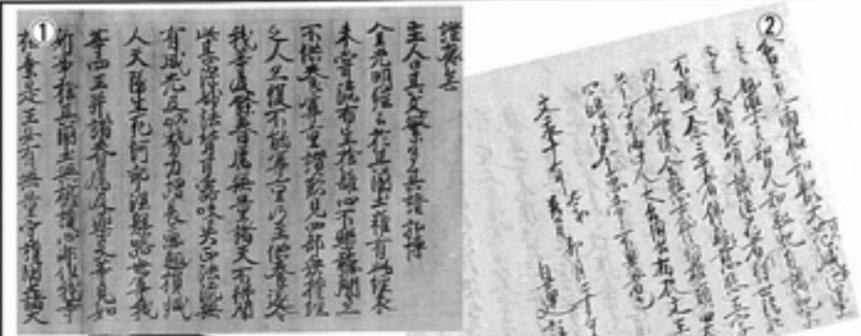


日常(富木常忍)像

後深草天皇の皇女常盤井姫は不治の病にかかり、世をはかなんで乳母と共に都を離れ、柏井の奉免で暮らしていましたが、日蓮の説法を聞いて日蓮から加持祈禱を受けたところ、日ならずしてこの業病が直ったといひます。このことから常盤井姫は日蓮に帰依して尼となり、日国の法号を頂いて柏井に安楽寺を建立しました。これが日蓮宗最初の尼寺です。

また、日蓮の百座説法を一日も欠かさず聞きにきていた女性がおりました。日蓮は怪しんで花瓶の水を頭から注いだところ、たちまち姿が竜に変わり日蓮の手許にあった経文八巻を奪って逃げました。村のものたちが後をつけると七巻の経文が点々として落ちていました。さらに後を追うと台地の外れにあたる大池の回りの桜の大木に経文一卷が掛かっていたので、これはこの池に住む姥神だということになりました。そしてこの池を姥ヶ池、または妙正池といい妙正寺が建てられました。七巻の経文を落したところを七経塚と呼び、七基の石碑が立てられていましたが、現在は妙正寺で見ることができます。

中心に日蓮にまつわる伝説が多いのはこうした理由からなのです。伝説では日蓮と常忍の出合いについて、二子ノ浦から鎌倉に向かうおり、凶らずも同船した二人が船中で問答を交わし、常忍はついに日蓮に帰依したといひます。また日蓮の説法にまつわる次のような話も伝えられています。



法華経寺を中心とした文化財の数々

法華経寺を中心としたこの地域は歴史と共に文化財が多く保存された地域です。例えば五重塔は江戸時代までに建造された全国に残る19基中の一つで、千葉県唯一のものであります。いま指定された文化財をあげてみると

- ◎国宝 ①立正安国論 ②観心本尊抄 (以上法華経寺)
- ◎重要文化財 ③五重塔 ④法華堂 ⑤四足門 ⑥祖師堂
- ⑦日蓮自筆遺文 ⑧絹本着色十六羅漢像 (以上法華経寺)
- ⑨絹本着色日蓮聖人像 (浄光院)
- ◎県指定文化財 ⑩木造釈迦如来・多宝如来坐像 (法華経寺)
- ◎市指定文化財 ⑪元弘の板碑 (泰福寺) ⑫木彫日蓮坐像 (唱行寺) ⑬黒門 ⑭本阿弥家分骨墓 ⑮本阿弥光悦分骨墓 ⑯光悦筆扇額 (以上法華経寺)等があります。



①「二子ノ浦船中図」(成田参詣記)
二子ノ浦は現在の船橋市二子周辺。当時は船着場になっていました。



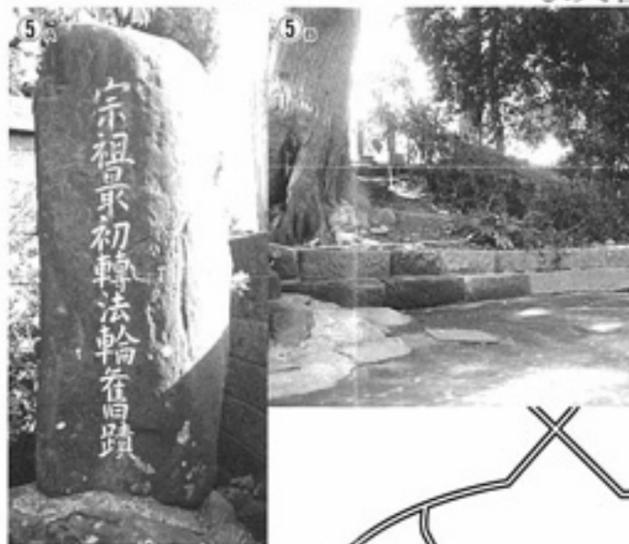
②鏡池・水鏡日蓮聖人像
日蓮はこの鏡池で水面に映る自らの姿を描いたといひ、その絵が浄光院に伝わる「水鏡の御影」即ち重文の日蓮聖人像ということです。



③竜測橋
欄干には擬宝珠のかわりに「ざくろ」が取付けられています。これは鬼子母神の象徴で日蓮が小松原の法難のとき顕れて日蓮を救ったといひ、若宮の館でその時の姿を彫り常忍に守護神とするよう授けたところから鬼子母神が法華経寺の守り本尊となったものです。



⑤奥之院の最初転法輪旧跡の碑と土塁



④竜池
日照りに苦しむ農民のため、日蓮が八大竜王を祀って祈禱したところ靈験が現れて雨を降らせたといひます。

奥之院の地は富木常忍の館の跡で、いまでも土塁の一部が残っています。
また日蓮が開宗後はじめて百日間にわたる百座説法を開いた地として知られています。



⑩安楽寺
常盤井姫の伝説をもつ日蓮宗最初の尼寺。伝承を裏付けるように菊の紋章が使われています。



⑪太鼓の霊場碑・鐘鼓塚
念仏僧修阿弥は日蓮の弟子になって日唱と号し、寺を唱行寺と称しました。そして今までのように鐘鼓を打つことを願いましたが、日蓮は鐘鼓の代わりに太鼓を打つことを許しました。日蓮宗で太鼓を打つことの始まりです。また、鐘鼓を埋めたところ鐘鼓塚と云って碑が立てられています。



⑨妙正寺池 池はコンクリートで囲まれてしまいましたが、姥神が経文を掛けたという桜にはしめ縄が張られています。

⑦七経塚 日蓮から経巻を奪って逃げた姥神が、あわてて七巻の経文を落した所に立てられたといわれる七経塚で⑧妙正寺道 奥之院と妙正寺を結ぶ道で、姥神が通ったとすが、今は妙正寺にあります。いう伝説がつけ加えられて「蛇小路」とも呼ばれています。

⑥八幡神社 若宮の鎮守、鎌倉松葉ヶ谷の焼討にあった日蓮は常忍を頼って若宮に来たおり、この八幡神社社頭で説法を行ったといひます。